

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスと理解	3	3	0	<講義内容> 高齢者の多くが医療サービスを必要としているため、介護職には医療などの他職種との連けいが不可欠であることを学ぶ。 <演習実施方法> 演習手法：「介護職の仕事の内容」について、班体制を用いてグループディスカッションを行う。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<講義内容> 初任者研修を終了した後で働く場所は「居宅サービス」「施設サービス」「地域密着型サービス」と大きく三つに分類される。 「在宅、施設を問わず介護職として働いていく上で基本となる知識、技術」を習得し、段階的にステップアップしていくことが求められる。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 中央法規ビデオテープで学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の基礎知識</li> <li>・障害形態別介護技術</li> <li>・東京シネ、ビデオ制作 共感的理解と基本的態度の習得</li> <li>・21世紀福祉の仕事等</li> </ul>
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	豊かに生きるために、人権について考える。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	3	3	0	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権と尊厳の保持についての講義をする。内容は、①個人としての尊重 ②アドボカシー ③エンパワメントの視点 ④「役割」の実感 ⑤尊厳のある暮らし ⑥利用者のプライバシーの保護のあり方を説明する。</li> <li>・福祉の理念とケアサービスの意義についての講義をする。内容は、①ICF ②QOL(生活の質)の考え方 ③ノーマライゼーションの歴史と思想を説明する。</li> <li>・人権擁護に関する法制度について講義をする。内容は、①身体拘束の禁止 ②高齢者虐待防止法 ③個人の権利を守る制度の概要(個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業)を最近の新聞等の記事を用いながら、説明する。</li> </ul>
②自立に向けた介護	4	4	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援と介護予防の考え方についての講義をする。内容は、①自律と自立支援 ②残存能力の活用 ③意欲を高める支援 ④個別ケアと重度化防止 ⑤介護予防の考え方とその実践方法についての説明をする。</li> </ul>
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<p>「社会と変化の中で人権を考える」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、豊かさと社会の変化 情報化、国際化、高齢化社会の中での生き方、価値観、環境の変化への対応について説明する。</li> <li>2、豊かさの中で豊かに生きるために ・学校、職場、家庭、地域の中でのバランスを考えた生き方を説明する。 ・おとなの役割として、若者が立派な社会人になる為に、価値観の変化、しつけ、社会の規範、ルール、学力、夢や希望等について説明する。</li> <li>3、これから大切にしたいこと ・世界人権宣言や憲法をふまえて、人権に関する法律について講義する。</li> <li>4、人権問題の例をあげて、解決のための考察を行ないながら講義をする。</li> </ol>
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 資料配布、パネル(写真)6枚
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 14  
商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	①介護職に求められる専門性を理解し、介護従事者としての倫理観を学ぶ ②介護におけるリスクに気付き、緊急対応の重要性を理解する。各職種と連携することの必要性を学び、介護職自身の安全を確保する方法を学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性 と他職種との連携	1	1	0	・介護環境の理解介護…サービスの種類・地域包括ケアシステムの役割 ・介護の専門性・専門職としての視点…利用者主体の介護・チームケアの重要性 ・介護に関する職種…他職種の理解・介護支援専門員・チームケアにおける役割分担
②介護職の職業倫理	3	3	0	・職業倫理…倫理の意義・介護の理念・利用者家族に対する責任・社会に対する責任・倫理規定
③介護における安全の確保と リスクマネジメント	1	1	0	・介護における安全の確保…安全管理体制・リスク対応の例から考える・事故の分類・事故予防・リスクマネジメントの理解と活用・事故発生時の対応・感染対策・感染の種類と特徴・洗浄と消毒・感染に対する正しい知識・環境整備
④介護職の安全	1	1	0	・介護職健康管理…ストレスマネジメント・身体的疲労・ストレス対策・ケアハラスメント・労働法
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 配布資料
------------	-------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙出来るようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	3	3	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設の背景及び目的とその動向についての講義をする。内容は、①ケアマネジメントの内容、②予防重視型システムへの転換、③地域包括ケアシステムの推進や制度自体の見直し内容を説明する。</li> <li>・介護保険制度の概要についての講義をする。内容は、①基本的仕組み、②給付の種類と使えるサービス内容、③申請手続きの方法、④各専門職の役割と連携の内容を説明する。</li> </ul>
②医療との連携とリハビリテーション	3	3	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医行為と介護 医行為とされる ALS(筋委縮性側索硬化症)の喀痰吸引と経管栄養を介護職員等が行う必要性と実施までの過程を理解する。</li> <li>・訪問看護 訪問看護指示書や説明同意書、病棟連絡の様式を使用し、項目の理解と必要性を学ぶ。退院から訪問看護の開始までの過程を理解する。</li> <li>・施設における看護と介護の役割・連携 医師・訪問看護師・介護支援専門員・薬剤師・介護職・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・病棟看護師・医療ソーシャルワーカー・退院調整看護師等、多職種との連携関係図を作成し、それぞれの職種の役割を理解し、検討事例を用いて連携方法を考え、多職種とのチームに参画する能力を養うことができる。</li> <li>・リハビリテーションの理念 国際生活機能分類 (ICF) に添って高齢者に多くみられる疾病を学び、急性期・回復期・維持期・終末期におけるリハビリテーションの流れを理解する。</li> </ul>
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者福祉制度の理念とその歴史的流れについての講義をする。内容は、①障がいの概念、②国際生活機能分類 (ICF) 、③障がい者福祉の歴史&lt;海外・日本を含む&gt;を説明する。</li> <li>・障害者総合支援制度の仕組みに関する基礎的理解を講義する。内容は、①申請から支給決定までの流れ、②従来からの障害者自立支援法から見直し点について説明する。</li> </ul>
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 配布資料
------------	-------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術を理解することにより、利用者に関わる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。 ② 文書を通して、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学び、個人情報の扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能となるようにする。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	3	0	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割 2人1組になり、相手を1分間無言で観察し、その後コミュニケーションを図りながら1分間経過してもらい、コミュニケーションの必要性や役割を理解する。</li> <li>・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション 視覚障がいや聴覚障がいの方とのコミュニケーション手段として、福祉用具を使って非言語コミュニケーションを理解する。</li> <li>・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 信頼関係を成立させるためには、介護現場で実践される「報告」「連絡」「相談」が重要であることを理解するために、具体的事例を通して考える。</li> <li>・利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 受講生同士で互いに自己紹介を体験するなど、身近で実施しているコミュニケーションを意識的に捉え直す機会を設け、客観的観察を促す。</li> </ul>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	3	0	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録における情報の共有化 介護現場で必要な文書の作成を実際に試みる体験を行い、記録の必要性やそれぞれの記録が担う役割に応じた記録の方法などについて話し合う。</li> <li>・報告 上記の用紙作成後に、それぞれ作成した文書の発表を行い、多職種への報告の必要性を理解し、報告時の留意点、連絡の留意点、相談の留意点を学ぶ。</li> <li>・コミュニケーションを促す環境 認知症のある利用者の具体事例を挙げて、どのようなコミュニケーションを図ればよいのかをグループディスカッションする。その実践から、他者の意見を知ることにより幅広くコミュニケーション方法を考え理解することができる。</li> </ul>
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 配布資料
------------	-------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うことと からだの変化と日常	3	3	0	老化、加齢に伴うこととからだの変化(知覚、記憶、性格など)の発達の特徴を理解し、ストレスが与える防衛反応の変化、退職などの喪失体験の知識を学ぶ。 そして老化に伴い、こととからだの機能が変化して日常生活にどのような影響を与えるか、知識を深める。
②高齢者と健康	3	3	0	高齢者に多い症状を理解し、特徴的な変化を示し、同時に高齢者疾患の特徴、中でも高血圧・糖尿病・高脂血症の生活習慣病を中心とした疾患、がん、心臓疾患について、さらに循環器、消化器、泌尿生殖器疾患について説明する。さらに脳神経系の疾患についても述べ、高齢者の精神的機能の変化及び疾患についても理解する。 その他、骨、関節疾患、特定疾患についても理解をする。 各疾患に対し、生活上の留意点、介護のポイントについても説明する。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 配布資料
------------	-------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症の必要性と認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症介護の基本原則を理解し、認知症ケアの理念や利用者中心のケアの考え方を学ぶ。</li> <li>「できること」に着目したケア、その人らしさを生かすケアの形としてパーソン・センタードケアの考え方を学ぶ。</li> </ul>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の定義診断基準などの基礎知識と加齢に伴うもの忘れと認知症の違い、認知症の初期症状について学ぶ。</li> <li>認知症原因疾患とアルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、その他の認知症について学ぶ。</li> <li>認知症の中核症状と行動・心理症状 (BPSD) の違い、代表的な心理症状や薬物療法について学ぶ。</li> </ul>
③認知症に伴うことからの変化と日常生活	2	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の行動や心理症状を理解し、対応方法を学び、行動及び心理症状が誘発される介護職の不適切なケアと適切なケアを理解する。</li> <li>認知症の中核症状による影響と生活支援の具体的な対応と留意すべき視点を学ぶ。</li> </ul>
④家族への支援	1	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症患者家族の介護者の負担やその要因を理解し家族の世話と専門家のケアの違い、家族介護者が在宅で出来ることと社会サービスの有効利用について学ぶ。</li> <li>家族の気持ち及びストレスを理解し、当事者や介護家族者とコミュニケーションを深めて、介護負担の軽減 (レスパイトケア) を行なう等、介護職に期待されることを理解する。</li> </ul>
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 配布資料
------------	-------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF を理解したうえで、各障害の特徴や障がい者、その家族に対する支援を学んで頂く			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	1	1	0	障害の概念、ICF の考え方、分類の説明 実際に症例をあげ、ICF に添って障害を理解する演習を行う (グループワーク)。
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1	0	身体障害(主に肢体不自由、言語障害)、知的障害、精神障害、高次脳機能障害を中心に、その特徴について講義し、その中でも身体障害、高次脳機能障害の方への関わり方を考えて頂く。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	0	障害受容の理解と障害をもつ人の家族の心理や負担の理解をし、家族に対する支援の方法を検討する。
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行 配布資料
------------	-------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>1、介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、介護福祉等の指示により基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>2、尊厳を保持し、その人の自立・自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> <p>3、高齢者だけでなく、視覚障がい者や肢体不自由者等を対象とした介助技術を習得する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	4	4	0	<p>&lt;講義内容&gt; 利用者の生活支援を担う介護法は、生活のはたらき（機能）について理解することが大切である。 人の「生活機能と障害」について世界の共通言語として位置づけられ、リハビリテーションや介護などに広く浸透しつつあるICFについて生活支援への活用をめざし学ぶ。</p>
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	4	0	<p>&lt;講義内容&gt; 老化に伴う学習や記憶、感情や意欲の変化、自己概念や生きがい及び障がいを受け入れる適応性等について、高齢者の心理を理解し、加齢に伴う個人的変化と影響を理解する。</p>
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	5	0	<p>&lt;講義内容&gt; ・人体の名称と骨格、関節、筋のはたらきを理解する。 ・ボディメカニクスの原則と介護への活用を学ぶ。 ・運動動作や神経系に関する介護のための基礎知識を理解する。 ・健康チェックとその観察ポイントを学ぶ。 ・こころとからだを一体的にとらえる視点や利用者の普段との違いに気づく視点を学ぶ</p>
④生活と家事	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt; 利用者の価値観を大切にし、生活習慣に合わせた介護支援を行なう。清掃や調理、洗たく等、家事援助について本人の出来る所までは自立とQOLの向上の為、本人の分担役割を行なう。廃用症候群の予防等を説明する。</p> <p>&lt;実習&gt; 衣類の補修（ボタン付け、止め具のつけ方、ウエストゴムの取替え等）</p>
⑤快適な居住環境整備と介護	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt; 利用者が快適な住所生活をする為に、住宅整備改修等、住空間について、またリフトや車いす等の福祉用具の使用について説明する。</p> <p>&lt;実習&gt; 実技はベッドメイキングについて、しわは褥瘡の原因になることを説明し、寝具の整備について、手順とシーツ交換の演習を行なう。</p>

項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt; 質の高い生活と生活環境を保つ為にメリハリのある日常生活を送り、身体状況に応じた身だしなみの方法を説明する。</p> <p>&lt;実習&gt; 身体の清潔の介護 1、全身清拭の手順を追って湯を使用して行なう。 2、陰部洗浄（人形をモデルにベッド上にて）行なう。 3、足浴と洗髪は受講生が利用者と介助者になり相互に演習する。</p>
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt; 移動・移乗に関する基礎知識と用具の活用方法や利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の方法等を説明する。また移動・移乗に関連したところとからだの要因について社会参加をふまえた留意点を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法</li> <li>・利用者の自然な動きの活用</li> <li>・残存能力の活用、自立支援</li> <li>・重心、重力の働きの理解</li> <li>・ボディメカニクスの基本原則</li> <li>・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす、洋式トイレ間の移乗）</li> <li>・移動介助（車いす、歩行器、つえ等）</li> <li>・褥瘡予防</li> </ul> <p>端坐位、正坐、長坐位の体位を説明し、寝返り、安楽な姿勢、起き上りの姿勢について理解させる。</p> <p>&lt;実習&gt; 片麻痺等障がいのある人の自立に向けた目標を持った援助をする（右麻痺、左麻痺）各々対応した実習を行なう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、ベッドから車いすへ</li> <li>2、車いすからベッドへ</li> <li>3、ベッドからポータブルトイレへ</li> <li>4、車いすから便座へ</li> <li>5、浴槽に入る</li> </ol>
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt; 食事にに関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について説明する。</p> <p>&lt;実習&gt; 食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備（時間、場所等）、食事に関した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアについて、誤嚥性肺炎の予防等、食生活のしくみについて実技を通して理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事時の基本姿勢（端坐位、臥位、正坐、長坐）による介助を食事介助用疑似食品を使用して盆に盛りつけて、一対一で利用者と介助者になり演習する。</li> <li>・視覚障がい者の場合はクロックポジションの説明を行なう。</li> <li>・その他、自助具と食器を利用した実習を行なう。</li> </ul>

項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑨入浴、清潔保持に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護	5	5	0	<p>&lt;講義内容&gt; 入浴、清潔保持に関連した基礎知識や色々な入浴用具と整容用具の活用方法について、入浴を阻害する要因について理解させ、支援方法を説明する。 利用者の羞恥心や遠慮への配慮について理解させる。</p> <p>&lt;実習&gt; ・入浴の手順を理解し、バイタルチェック等全身の体調確認を行なう。 ・身体障害に応じた清潔保持 (家庭用風呂、機械浴、シャワー浴、清拭等)を選択し、使用方法、身体の支え方、その他足浴、手浴、洗髪についても演習する。 ・入浴後の目・鼻腔・耳・爪を清潔にする等環境を整える。</p>
⑩排泄に関連したことと からだのしくみと自立に向け た介護	5	5	0	<p>&lt;講義内容&gt; 排泄の基礎知識やしくみを理解させる。身体面(生理面)、心理面、社会的な意味、プライドや羞恥心について、またプライバシーの確保、おむつの使用の弊害や最後の手段としての使用について排泄障がいや日常生活上の影響、排泄ケアによる心理的要因を説明する。</p> <p>&lt;実習&gt; 自立に向けた排泄介助として各障がい者に応じた介護実習を受講生が利用者、介助者になり行なう。 ・一部介助を要する利用者には洋式トイレ、ポータブルトイレ、おむつ類の使用した介助演習を行なう。 ・臨床での利用者には便器、尿器の使用した介助演習を行なう。その他便秘予防について、水分摂取、食事の工夫の理論と腹部マッサージの演習を行なう。</p>
⑪睡眠に関連したことと からだのしくみと自立に向け た介護	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt; 睡眠に関する基礎知識やしくみ、快い睡眠を妨げる要因(例えば認知症の昼夜逆転の対応)の理解と支援方法や寝室の環境の整備について説明する。</p> <p>&lt;実習&gt; ・安眠を保つ為の寝具の整え方を実習する。 ・ベッドメイクの手順を把握し、空のベッドでのシーツ交換と人が寝たままでのシーツ交換を行ない、安楽な姿勢や褥瘡予防と同時に介護者のボディメカニクスも習得する。</p>
⑫死にゆく人に関連した こととからだのしくみと 終末期介護	4	4	0	<p>&lt;講義内容&gt; 終末期に関する基礎知識と緩和ケアについて学ぶ。生から死への過程や「死」との向き合い、こころの理解、苦痛の少ない死への支援を行なう。 終末期家族ケアと高齢者の死に至る過程、臨終が近づいた時の兆候と介護、介護従事者の基本的態度について、医師、看護師、介護者との連携プレーが重要なポイントになることを説明する。 本人や家族には耳を傾けて、精神的苦痛を柔らげ、家族には療養場所の選択等、重要なケア方針を決めておく。</p>

項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬介護過程の基礎的理解	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より生活、人生を送るための介護過程の目的、意義を説明し、利用者に必要な介護をどのような方法で提供すればよいかを科学的に組み立てる。</li> <li>・介護過程と利用者に関係する職種や取り巻く全ての人々が生活の自立、QOL向上に向けたチームアプローチの必要性を講義する。介護過程では、アセスメントとして、利用者の健康状態、日常生活の状況、能力等を収集し、分析を行なう。ケアチームは、介護過程の展開としてアセスメント→課題の明確化→介護計画の立案→介護実施→評価と修正を、利用者が利用終了まで連続させることを理解させる。</li> <li>・介護過程の展開を介護従事者が行うには、利用者の生活機能を全人間的に把握し、生活機能の向上、改善をめざす介護の実践の重要性を説明する。</li> </ul>
⑭総合生活支援技術演習	6	6	0	<p>&lt;実習&gt;</p> <p>事例（生活の各場面の介護について、ある状態像の利用者を想定したもの）による一連の生活支援を提供する流れの理解と、技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供するポイントを習得する。</p> <p>グループ単位でどのような介護技術使ったらよいかを決める。状態像の把握（情報収集）→アセスメントの記入→介護計画の立案→グループ討議と介護計画の一本化→グループ別発表→評価後結果の報告→まとめシートに記入の順序で行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、事例を用いて情報収集を系統的・体系的に行い、利用者の全体像をとらえる。</li> <li>2、事例を用いて、情報分析する時、専門的知識を結びつけてないようを解釈し、課題の明確化につなげる。</li> <li>3、介護計画の立案は、利用者の個別性、日常生活の継続性、自立支援、自己決定の重要性を理解させる。</li> <li>4、介護の記録と報告はポイントを押えてまとめる。</li> <li>5、介護過程のプロセスに即した事例を作成させる。</li> <li>6、作成した事例に基づいて、演習課題を提示し、展開させる。（1事例1. 5時間程度で実施する）</li> </ol> <p>事例は高齢分野（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施する。また、2事例のうち「障がい分野」に関する事例を取り入れて実施することもある。</p>
(合計時間数)	75	75	0	

使用する機器・備品等	<p>各種車いす、テーブル、足台、防水布、エプロン、自助具、いす（背もたれやひじあてのあるもの）、クッション、食器（食べやすく工夫されたもの）、ビニール、タオル、ストロー、スプーン、フォーク、はし、吸いのみ、おしぼり、とろみ剤、ポータブルトイレ、取り付け式手すり、便器（和式・和洋折衷型、洋式）尿器（男性用・女性用採尿器）、各種おむつ、おむつかバー、パッド、ゴムマット、バスタオル、汚れたおむつを入れる容器、着脱しやすい衣類、パジャマ、寝巻き（ゆかた式）着脱が容易にできる衣類（片マヒ用、後ろファスナー）、ベッド、昇降式特殊浴槽、簡易浴槽、一般浴槽、シャワーチェア、シャワーキャリー、入浴台、手すり、洗面器、バスボード、浴槽台、便器、滑り止めマット、すのこ、防水シート、クッション枕、ウォッシュクロス、ヘアブラシ、くし、シャンプー、リンス、石鹸、保湿クリーム、紙おむつ、綿棒、耳栓、つま切り、ドライヤー、洗髪用パッド、シャンプーハット、バケツ、洗面器、陰部用洗浄容器、ドライシャンプー、ゴム手袋、やかん、湯せん用ピッチャー、陰部用タオル、ビニールシート、洗髪器、50%エタノール、ガーゼ、コップ、受水盆、ベビーオイル、着替え、ヘアバンド、ブラシ、安全カミソリ、電気カミソリ、各種歯ブラシ、舌ブラシ、巻綿子、コップ、手鏡、電動ベッド、ギャッジアップベッド、マットレス、マットレスパッド、布団、毛布、掛け布団、枕、クッション、枕カバー、シーツ、ベッドブラシ、タオルケット、洗濯かご、座布団、小枕、大枕、介助バー、エアマット・ビーズマット、便座（トイレ）、スライディングボード、スライディングシート、滑り止めテープ、歩行器、各種つえ、いす、白杖、アイマス、副子、三角巾、包帯、消毒ガーゼ、段ボール、「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行、配布資料</p>
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 14

商号又は名称： 学校法人 鴻池学院

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習、研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	2	2	0	(1)職務の理解から(9)こととからだのしくみと生活支援技術まで、研修全体を振り返り、チェックシートに沿って自己評価を行う。 ・介護者は利用者の生活の拠点に共に居ることが基本となる。各々の模擬演習を行う中で、身だしなみ、言葉遣い対応の態度等の礼節を重んじた態度で、利用者に接することを理解させる。 ・利用者の状態に応じた介護と介護過程、身体や心理及び社会面について総合的理解を深めるための知識の重要性、チームアプローチの重要性を理解する。
②就業への備えと研修終了後における事例	2	2	0	・介護人材の資格制度の改正の方向性を理解する。 ・介護技術の評価制度の動行を理解する。 ・介護技術の評価基準を活用して自己研鑽に役立てる。 ・OJTの実践と振り返りの必要性を学ぶ。 ・継続した学習により、その人の理解、知識、技術がさらに身につくことを理解する。
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者養成研修課程テキスト」日本医療企画発行、配布資料、DVD教材等
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。